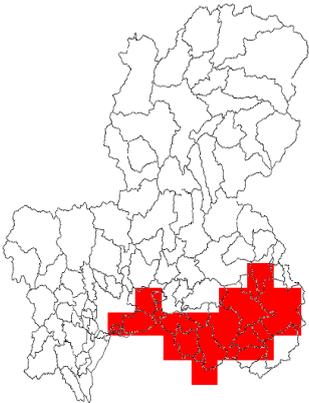


シデコブシ	<i>Magnolia stellata</i> (Siebold et Zucc.) Maxim.	絶滅危惧Ⅱ類
(環境省:準絶滅危惧)		種子植物 モクレン科
選定理由	周伊勢湾要素(東海丘陵要素)を代表する種である。その分布域の生育条件が悪化して種 _の 存続へ圧力が強まっていると考えられる。	写真(野村勝重)
形態の特徴	5m以上になることもある落葉低木から小高木。1年枝には密に毛がある。葉は互生し倒披針形から長楕円形で全縁。長さ5-10cm幅1-3cm。表面は無毛、裏面は若いとき脈上にしばしば毛がある。花被片は萼片と花弁に区別でき、萼片は3枚、花弁は6枚から40枚に至ることもある。花の下に小型の葉がある。	
生態的特徴	低地の湿潤な所に生え花期は3月下旬から4月下旬。葉が展開する前に白色から濃紅色までの花が咲く。	
分布状況	岐阜県、三重県の北部、愛知県の尾張部の一部と渥美半島に分布している。岐阜県では美濃地方の中部から東部にかけて分布する。	
減少要因	湿地の自然更新が全く無理な社会状況になってきた。そして、燃料革命以後里山の維持管理が放置され高木などに被圧され続けている。その結果、実生発芽・萌芽更新などの樹木更新が極めて困難な状態に陥っている。	
保全対策	シデコブシがある湿地全体を保全すること。実生発芽の必要条件、萌芽更新の必要条件などを維持する事により、一定の保全は可能となる。	
特記事項	シデコブシの自生地のある里山の開発に際し、科学的な検討と協議が必要。そして、湿地・湿原・沢筋などの保全が必要。この事は周伊勢湾要素(東海丘陵要素)を保全する事に繋がる	
参考文献	岐阜県植物誌	

文責:野村勝重